

# Ensemble14 第5回演奏会

2002年 3月16日(土) 14:30開演

三鷹市芸術文化センター 風のホール

後援: JCDA 日本合唱指揮者協会

バッハカンタータの世界へようこそお越し下さいました。

学生の頃から思えば20数年の間、常に私の音楽活動の中心に在ったバッハのカンタータ。それを今、やはりバッハを愛する若者(と呼べるのもあと数年……!?)たちと共に演奏する機会を得て、早5回目の演奏会を迎えようとしております。

Ensemble14が演奏したカンタータは、まだまだ決して多い数では有りませんが、団員達には、彼らなりのバッハ像が見えてきたようです。彼らは埃を被ったドイツ語の辞書を引っ張り出し、インターネットで資料を集め、無論毎週土曜日の練習で実際に音にする事で、かなりのウンチクを語るようになってきました。今日の解説文をご覧になってもかなり偉そうな書きっぷりでしょう!?

でも…そんな彼らが、来年の春に、おまえ(つまり私)の好きなやり方で、お金はいくら使ってもいいから(そんな事言っていないかなあ!?)、バッハカンタータの一夜をプロデュースしてみないかと言ってくれました。こんな嬉しい事はありません。

今からその日が楽しみで、でもチョッピリ不安だったり…ドキドキしたり、にやにやしたり…モテットもやっちゃおうかなあ!? 世俗カンタータも一曲ぐらい入れちゃおうかなあ…? ソロカンタータもどなたかお招きしてやるのも悪くないし…。

え!?! 今日ですかあ…? そりゃあ頑張りますよ!!

その日までこの可愛いスポンサー達を私の手の届くところに置いとく為にもね…!

辻 秀幸

**カンタータ36番 『喜び勇みて羽ばたき昇れ』**

Kantate Nr.36 《Schwingt freudig euch empor》 BWV 36

(2)室橋 明美[S]、大石 明子[A] (3)室橋 義明[T] (5)武内 崇史[B] (7)木藤 裕子[S]

**カンタータ61番 『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』**

Kantate Nr.61 《Nun komm, der Heiden Heiland》 BWV 61

(2)山田 陽史[T] (3)室橋 義明[T] (4)大石 峰士[B] (5)室橋 明美[S]

( 休 憩 )

**ミサ曲 ト短調**

Messe in g-moll BWV 235

(3)武内 崇史[B] (4)中神 康一[A] (5)内藤 秀司[T]

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ  
Johann Sebastian Bach (1685~1750)

指揮	<b>辻 秀幸</b>
声楽	<b>Ensemble14</b>
管弦楽	<b>Millennium Bach Ensemble</b>
	ヴァイオリン 大西 律子
	磯田ひろみ
	ヴィオラ 続橋 直子
	吉田 篤
	チェロ 西沢 央子
	コントラバス 角谷 朋紀
	オーボエ 佐々木美和
	新井 恵
	ファゴット 井上 直哉
	オルガン 能登伊津子

# カンタータ36番 『喜び勇みて羽ばたき昇れ』

## Kantate Nr.36 《Schwingt freudig euch empor》 BWV 36

用途：待降節第1主日用カンタータ

初演：1731年 12月 2日 ライツツヒにて

カンタータ第36番は、世俗用として使われた事のある音楽を教会カンタータ用に改編して作られた。その構成は、二部に分かれレチタティーヴォを含まない、珍しいものである。一部は説教の直前に、二部は聖餐の執行中に歌われる。

### <第一部>

第1曲。印象的な冒頭 "Schwingt freudig euch empor" の合唱は、あたかも優雅な鳥の群が次々と大空に飛び立ってゆくさまを思わせる。変化に富んだリズムは、人々の天の高みへの憧れを快活にうたいあげ、その後が続く「いや、静まれ！」のフレーズをくっきりと際立たせる。

第2曲。アルトとソプラノのデュエットが歌う、マルティン・ルターのコーラル「さあ来てください、異邦人の救い主」。秘めた熱情が込められる。

第3曲。テノールによる甘美なアリアは、花婿(キリスト)と、花嫁(魂)のイメージによる。オーボエ・ダモーレ(愛のオーボエ)が誘う陶酔の世界は、真摯な信仰のもたらす法悦であろうか？

第4曲。フィリップ・ニコライによるコーラル。美しい花婿(キリスト)と共に歩む喜びを4声合唱がうたい、一部が締めくくられる。

### <第二部>

第5曲。信徒がパンとぶどう酒を受ける儀式中に、バスによって歌われる。確固たる意志を持つ、朗々たるアリア。

第6曲。テノールのコーラスによる、ルターのコーラル。己が病んだ肉体に打ち勝つ為、神の権能を願う。

第7曲。神、キリスト、聖霊の三位一体節。ソプラノの清らかなアリアに、優しい弦が聖霊の輝きを添える。

終曲。ルターのコーラル。神への永遠の賛美が合唱により歌われる。

個人的には、宗教的基盤をもたぬままに教会カンタータを歌う事に、若干の戸惑いを覚えることがある。しかし、バッハの音楽から放たれる、天からの一条の光のようなものを感じず、躊躇は消え去り、この曲のタイトルのごとく喜びを持って歌うことができるのである。

(Manami.S)

## 36 《Schwingt freudig euch empor》

### 1. (Coro)

Schwingt freudig euch empor  
zu den erhabnen Sternen,  
ihr Zungen, die ihr itzt in Zion fröhlich seid!  
Doch haltet ein!  
Der Schall darf sich nicht weit entfernen,  
es naht sich selbst zu euch der Herr der Herrlichkeit.

### 2. (Choral)

Nun komm, der Heiden Heiland,  
der Jungfrauen Kind erkennt,  
des sich wundert alle Welt,  
Gott solch Geburt ihm bestellt.

### 3. (Aria)

Die Liebe zieht mit sanften Schritten  
sein Treugeliebtes allgemach.  
Gleich wie es eine Braut entzüket,  
wenn sie den Bräutigam erblicket,  
so folgt ein Herz auch Jesu nach.

### 4. (Choral)

Zwingt die Saiten in Cythara  
und laßt die süße Musica  
ganz freudenreich erschallen,  
daß ich möge mit Jesulein,  
dem wunderschönen Bräutigam mein

## 「喜び勇みて羽ばたき昇れ」

喜びに満ちて高みに舞い上がれ  
浮き上がるきら星のもとへ、  
今シオンにいて喜ぶ人々の声よ！  
いやそのままに！  
大きな響きがかなたへ遠ざかる必要はない、  
栄光の主自らがあなた達に近づいてくださるのだから。

さあ、来てください、異教徒の救い主よ、  
乙女の子として認められ、  
全世界を驚かせる方よ、  
神はそのような生まれを選ばれたのです。

愛は優しい歩みで、誠実に愛するものを  
だんだんと引き寄せる。  
花嫁が花婿を見いだしたとき  
心奪われるのと同じく、  
魂もまたイエスのほうへと従う。

シターの弦を合わせ  
あまたの喜びにあふれた甘い音楽を  
響き渡らせよ、  
いとしいイエス、私が、  
とても綺麗な花婿と共に

in steter Liebe wallen.  
Singet, springet, jubiliert,  
triumphieret, dankt dem Herren!  
Groß ist der König der Ehren.

変わらぬ愛のうちに歩めるように！  
歌え、飛び跳ねよ、祝え、  
勝どきの声をあげよ、主に感謝せよ！  
大いなるものは栄光の王。

5. (Aria)

Willkommen, werter Schatz!  
Die Lieb und Glaube machet Platz  
vor dich in meinem Herzen rein,  
zieh bei mir ein!

ようこそ、尊き宝よ！  
愛と信仰があなたのために  
私の心の内を穢れない場にする、  
私の内にどうぞ入ってきてください！

6. (Choral)

Der du bist dem Vater gleich,  
führ hinaus den Sieg im Fleisch,  
daß dein ewig Gottes Gewalt  
in uns das krank Fleisch enthält.

父と等しい方よ、  
肉における勝利を導いてください、  
あなたの永遠の神の権限が  
私たちの病んだ肉を抑制するように。

7. (Aria)

Auch mit gedämpften,  
schwachen Stimmen wird Gottes Majestät verehrt.  
Denn schallet nur der Geist darbei,  
so ist ihm solches ein Geschrei,  
das er im Himmel selber hört.

弱められた、  
小さい声であっても神の荘厳は崇拝される。  
なぜならば精霊が響かせれば、ただそれだけで  
一つの叫び声となり、  
天なる神御自身に聴こえるのだから。

8. (Choral)

Lob sei Gott, dem Vater ton,  
Lob sei Gott, sein'm eingen Sohn,  
Lob sei Gott, dem Heiligen Geist,  
immer und in Ewigkeit.

父なる神を誉めたたえよ、  
ひとり子なる神を誉めたたえよ、  
聖霊なる神を誉めたたえよ、  
いつも、そしていつまでも。

(歌詞対訳 A.Kawamura)

## カンタータ61番 『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』

### Kantate Nr.61 《Nun komm, der Heiden Heiland》 BWV 61

用途：待降節第1主日用カンタータ

初演：1714年 12月 2日 ヴァイマールにて

カンタータ61番は、待降節第1主日用のカンタータとして、1714年に、ヴァイマールの宮廷礼拝堂で初演された。

待降節はクリスマスまでの4回の主日(日曜)を含む期間であり、キリストの到来が祝われる教会年の初めである。

この第1主日のための福音書章句であるマタイ伝第21章1-9節は、キリストのエルサレムへの凱旋の始まりを語っている。イエスは、預言者の言葉通り、ろばの背に乗り、群衆の歓喜に迎えられてエルサレムへの凱旋を果たすのである。このイエスの到来を願う思い、そして歓喜がカンタータ61番の主題となっている。

第1曲はルターのコーラルを使用している。従来のコーラルとは異なり、「フランス風序曲」形式の「緩-急-緩」という構成がとられている。「緩」の荘厳なコーラル部分に対して、「急」では「des sich wundert alle Welt(全世界を驚かせる方よ)」という詞のその驚きが、そのまま3拍子の中で表されている。

第2曲レチタティーヴォで、テノールが救い主の到来と、その祝福

を讃え、続く第3曲テノールのアリアへ引き継がれる。イエスの来訪を願う思いと新しい年への希望を歌い上げる。

第4曲では、とうとうイエスが到着し、信徒の心の扉を叩く。その叩く音は弦のピッチカートで表現されている。落ち着いて語るようなメロディがイエスの言葉の重みを感じさせるレチタティーヴォである。

第5曲。ソプラノがイエスの来訪を願う思いと、願いが叶えられる至福の喜びを美しいアリアで歌う。この喜びは「O wie selig(何と幸せなこと)」という言葉に凝縮されている。

第6曲は、P.ニコライのコーラル「いと麗しき明けの明星」が現れる。アーメンの歓喜の声が鳴り響く中、会衆はイエスの到来を求め続ける。アルト、テノール、バスに現れる「Komm, komm(来てください)」という重ねて呼びかける言葉や、最後に現れるアルトとテノールのメロディの掛け合いが、イエスを求めて止まない信者の願いを表している。

(Y.Kinoshita)

## 1. (Ouverture)

Nun komm, der Heiden Heiland,  
der Jungfrauen Kind erkannt,  
des sich wundert alle Welt,  
Gott solch Geburt ihm bestellt.

さあ、来てください、異教徒の救い主よ、  
乙女の子として認められ、  
全世界を驚かせる方よ、  
神はそのような生まれを選ばれたのです。

## 2. (Recitativo)

Der Heiland ist gekommen,  
hat unser armes Fleisch und Blut an sich genommen  
und nimmet uns zu Blutsverwandten an.  
O allerhöchstes Gut,  
was hast du nicht an uns getan?  
Was tust du nicht noch täglich an den Deinen?

救い主はおいでになり、  
私たちの貧しい肉と血を受け入れ  
血を分けた者として迎え入れてくださった。  
おお、至高の富よ、  
私たちにしてくださらないことが何かあったらどうか。  
そして今なお、日々あなたの者達のために  
何かしてくださらないことがあるだろうか。  
あなたはおいでになり、その光にあふれるばかりの祝福で  
さらなる輝きを与えてくださるのです。

Du kömst und läßt dein Licht  
mit vollem Segen scheinen.

## 3. (Aria)

Komm, Jesu, komm zu deiner Kirche  
und gib ein selig neues Jahr!  
Befördre deines Namens Ehre,  
erhalte die gesunde Lehre  
und segne Kanzel und Altar!

来てください、イエスよ、あなたの教会へ来てください。  
そして、幸せな新しい年を与えてください！  
あなたの御名の栄光を引き立て  
健全な教えを養い  
説教壇と祭壇を祝福してください！

## 4. (Recitativo)

Siehe, ich stehe vor der Tür und klopfe an.  
So jemand meine Stimme hören wird  
und die Tür auftun,  
zu dem werde ich eingehen  
und das Abendmahl mit ihm halten,  
und er mit mir.

見よ、私は戸口に立ち扉をたたく。  
そうして誰かが私の声を聞き  
その扉を開ければ、  
私はその者の内に入り  
彼と晚餐を共に過ごそう、  
そして彼もまた私と共に。

## 5. (Aria)

Öffne dich, mein ganzes Herze,  
Jesus kömmt und ziehet ein.  
Bin ich gleich nur Staub und Erde,  
will er mich doch nicht verschmähn,  
seine Lust an mir zu sehn,  
daß ich seine Wohnung werde.  
O wie selig werd' ich sein!

さあ、開きなさい、私の心の全てを。  
イエスが来て入ってきてくださる。  
私がただの塵芥や土くれと同じだとしても  
彼は私をはねつけることなく  
関心を持ってみてくださる、  
すなわち私が彼の住まいとなるようにと。  
おお、それならば私はなんと幸せなことでしょう！

## 6. (Choral)

Amen, Amen!  
Komm, du schöne Freudenkrone,  
bleib nicht lange!  
Deiner wart' ich mit Verlangen.

アーメン、アーメン、  
来てください、あなたは美しい喜びの冠、  
どうぞ長引かせないでください。  
私はあなたを焦がれ待つ。

(歌詞対訳 A.Kawamura)

## ミサ曲 ト短調

### Messe in g-moll BWV 235

成立：1738/39年頃

ミサ曲ト短調 BWV232 が世間に広く知られていることとは裏腹に、バッハ作品の中でラテン語の曲は特殊な位置付けにあり、ある意味バッハらしくない作品であるとも言えるかも知れません。というのはバッハの声楽作品の大多数はもっぱらルター派礼拝の中で演奏されるドイツ語歌詞による曲だったからです。

バッハはよく自作を全く別の作品に転用しました。今回演奏されるミサ曲ト短調 BWV235 は全曲が既存のドイツ語カンタータ(具体的にはBWV72、BWV102、BWV187)から転用されたものです。なぜバッハが50歳過ぎたこの時期にこうしたミサ曲を作曲する必要があったのかは不明です。なお Kyrie(第1曲)と Gloria(第2曲～第6曲)のみからなる形式のミサ曲は当時のルター派礼拝の中で用いられていました。

第1曲 Kyrie の出だしでは、アルトが2小節かけて"Kyrie eleison, eleison"と歌っていますが、原曲では同じフレーズに "Herr, deine Augen sehen nach dein" という歌詞が割り当てられています。この例か

らもわかるように、ミサ曲の歌詞はミサ典礼文であり、原曲と比べると歌詞の分量が少なく、ミサ曲では音符に乗っている言葉の数が少なくなっています。ドイツ語の原曲では言葉・音節・子音の数が多く、そのぶん歌詞と音形との関係が密になっていますが、ラテン語のミサ曲では音形に対する歌詞の制約が緩く、演奏する上で音符の器乐的な面が強調されることとなります。冒頭でバッハらしくないと述べた理由にはこうした点も含まれます。

ミサ曲ト短調の中の3つの合唱曲はどれもフーガや16分音符のメスマが派手な印象の強い曲です。バッハはなぜ自分の曲をミサに転用したのでしょうか。きっとこれらの曲がバッハ自身のお気に入りだったからなのではないか、と私は勝手に想像しています。

(K.Nakagami)

### 235 Messe in g-moll

#### 1. Kyrie

Kyrie eleison.  
Christe eleison.  
Kyrie eleison.

主よ憐れみをください。  
キリストよ憐れみをください。  
主よ憐れみをください。

#### 2. Gloria

Gloria in excelsis Deo  
et in terra pax hominibus  
bonae voluntatis.  
Laudamus te.  
Benedicimus te.  
Adoramus te.  
Glorificamus te.

天の神には栄光。  
そして地上には善良な人々に望まれている  
平和。  
私たちはあなたを称賛します。  
私たちはあなたを祝福します。  
私たちはあなたを崇拜します。  
私たちはあなたを褒め讃えます。

#### 3. Gratias

Gratias agimus tibi  
propter magnam gloriam tuam.  
Domine Deus, Rex coelestis,  
Deus Pater omnipotens.

あなたの大いなる栄光ゆえに  
私たちはあなたに感謝します。  
主なる神よ、天の王よ、  
全能の父なる神よ。

### ミサ曲 ト短調

#### 4. Domine Fili

Domine Fili unigenite,  
Jesu Christe.  
Domine Deus, Agnus Dei,  
Filius Patris.

神のひとり子として生まれた主よ、  
イエスキリストよ。  
主なる神よ、神の子羊よ、  
父なる神の子よ。

#### 5. Qui tollis

Qui tollis peccata mundi,  
miserere nobis.  
Qui tollis peccata mundi,  
suscipe deprecationem nostram.  
Qui sedes ad dexteram Patris,  
miserere nobis.  
Quoniam Tu solus sanctus,  
Tu solus Dominus,  
Tu solus Altissimus  
Jesu Christe.

人々の罪を受けてくださるあなたは、  
私たちに憐れみをお与えください。  
人々の罪を受けてくださるあなたは、  
私たちの謝罪を引き受けてください。  
父なる神の右に居られるあなたは、  
私たちに憐れみを与えてください。  
あなたは唯ひとりの聖者、  
あなたは唯ひとりの主、  
あなたは唯ひとりの非常に崇高な  
イエスキリストであるから。

#### 6. Cum Sancto Spiritu

Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.  
Amen.

父である神の栄光に聖なる精霊とともに。  
真に。

つじ ひでゆき  
指揮 **辻 秀幸**

Ensemble14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L.グアアリーニ女史、F.タリアヴィーニ、H.リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988/89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを努め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開し、またオペラでは、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・また指揮者として、その活動は常に注目を集めている。洗足学園大学附属高等学校音楽科講師、ぐるーぷ・なべ幹事、日本合唱指揮者協会理事、川崎市民オペラ理事、iARTS理事。共著に「わかって歌おう - レクイエム発音講座」がある。

ミレニアム・バッハ・アンサンブル

### Millennium Bach Ensemble

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体で、第2回演奏会以降、Ensemble14との共演が続いている。

## Ensemble14

辻 秀幸先生の呼びかけにより、J. S. バッハのマタイ受難曲を歌う目的で1998年8月に発足したアマチュア合唱団。

“14”(vierzehn)はバッハ自身も用いたといわれるBachを表す数字で、b = 2、a = 1、c = 3、h = 8 を足し合わせたもの。

- 1999年4月 マタイ受難曲の抜粋演奏(ピアノ伴奏)に、「マタイを歌う会」とともに出演 (日本基督教団奥沢教会)  
1999年9月 第1回演奏会 カンタータ第150番、第155番、第106番 (ルーテル市ヶ谷センター)  
2000年4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第二コーラスとして出演 (日本基督教団田園調布教会)  
2000年9月 第2回演奏会 カンタータ第196番、第131番、第182番 (神奈川県民ホール小ホール)  
2001年3月 第3回演奏会 カンタータ第22番、第48番、第23番 (すみだトリフォニーホール小ホール)  
2001年9月 第4回演奏会 カンタータ第1番、第27番、第140番 (川口総合文化センターリア音楽ホール)

## Ensemble14 メンバー

指揮者 : 辻 秀幸                      練習ピアニスト : 田城 章子  
代表 : 中神 康一                      副代表 : 武内 崇史 ・ 内藤 秀司 ・ 小林 尚弘

Soprano 大久保淳子 太田真貴子 加藤かおり 川村 昌子 木藤 裕子 木下 祐子 小林 総子 北郷 博美  
湊 佳代 室橋 明美 (大山永里子 鹿島 晶子 田中百合子 中神 幸穂 難波 愛 林 玲子)  
Alto 大石 明子 柿原 紀子 小林 朋子 重野真奈美 富岡 愛子 中神 康一 (日向 典恵)  
Tenor 内藤 秀司 室橋 義明 山田 陽史 (小泉 孝博 中原 浩一)  
Bass 大石 峰士 加藤 正 小林 尚弘 武内 崇史 壺内 克浩 (太田 浩樹 佐藤 紀之 林 秀博)

### ☆ 一緒に歌いませんか ☆

Ensemble14では一緒に歌って下さる方を随時募集しております。バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。

次の演奏会は2002年9月14日(土)、四谷区民ホールで、カンタータ第5番、第47番、第70番の演奏を行う予定です。

指導                      辻 秀幸 先生  
練習日                      毎週土曜日(10:00~12:00 または 13:00~17:00)  
練習場所                      自由が丘(東急東横線・大井町線)、武蔵小杉(東急東横線) など  
お問い合わせ                      中神(Tel 047-334-8651) 室橋(email YRM01040@nifty.ne.jp)  
ホームページ                      <http://www.netpassport.or.jp/~wkgami/ensemble14>